

バトンはおらんだが受け取った!

～次世代へ向けた新しい体制～



農事組合法人サンファームしらたか

魅力ある地域農業を若者の手で

白鷹町鮎貝「農事組合法人サンファームしらたか」では、現在5名(若手農業者4名、事務員1名)が正規社員として採用され、現場で活躍している。

入社1年目には、様々な作物の栽培を担当しながら経験を積み、2年目に先輩の助言のもと、自らが担当する作物を決めて農作業に当たっている。その後、社内で開催される事業計画策定会議や定例会議に参加する中で、他のメンバーが担当する作物のことや経営のためのノウハウを学んでいる。

「事前の職場体験と納得できる勤務体制に魅力を感じた」のが、入社決め手になったという。

親世代が地域農業に変化を求めた

農業者の高齢化、後継者不足などが急速に進んだ白鷹町鮎貝地区では、先祖代々受け継がれてきた土地をどう活かす、守っていくかを本気で話し合った。自分たちの代で地域の農業を途絶えさせない、そのためには若者が農業で食っていけるようにと。

決まった面積の中で、効率を上げ、何を作っていくのか?そのためには、基盤の整備が不可欠だった。平成7年から県営事業で大区画ほ場整備と暗渠排水工事が実施され、並行して平成10年に農家6名で法人を立ち上げた。

そして、水稲の他、啓翁桜・枝豆・スイートコーン・メロン・葉物野菜を栽培し、今では、権威ある賞も受賞している。

平成30年度の主な受賞

- ・大高根農場記念山形県農業賞(※)
- ・おきたまスプリングフラワー花き品評会最優秀賞
- ・山形県温室メロン品評会優秀賞
- ・山形県啓翁桜品評会銀賞

(平成30年度以外にも多数受賞)



※大高根農場記念山形県農業賞とは?

大正9年、県立自治講習所に設置された大高根農場(村山市)が、他の模範となる者を表彰したことが始まり。

昭和55年からは、山形県の農業の振興発展に貢献した個人や団体をたたえる最高賞として知事が表彰。

ナイスバトンタッチ

小口晋介さんは、普通高校在学中に、「サンファームしらたか」で働く父親の姿を見て、農業に魅力を感じ始めたという。卒業後すぐ、大規模な先進的水稻栽培に取り組み新潟県の農業法人で、1年間そのノウハウを習得したあと、日本農業経営大学校で2年間農業経営を学んだ。今まで学んだ知識を活かすため、「地元白鷹に戻って就農する以外にはない！」という強い思いが生まれ、サンファームへの入社を決めた。

現在入社3年目、今までの経験を活かせる水稻を担当しながら、広報の仕事も任せられる存在となり、ホームページやSNSを活用した情報発信の分野でも力を発揮している。

農業の魅力は？の問いに「毎日する仕事が違うこと」と、「同じ志を持つ仲間と働けること、そして何でも相談できる先輩の存在は大きい」という答え。

今後の目標は？の問いには「先輩たちが築いた農地や法人への想いを引き継いでいくこと」「作物の品質向上、コストの削減、新たな販路の開拓や拡大によって法人の発展につなげること」と笑顔で語ってくれた。



東京の販売イベントに参加する小口晋介さん



農事組合法人サンファームしらたかの皆さん

農業の「働き方改革」
繁忙期には長時間労働となる農業だが、若手社員の入社をきっかけに、組織内の労働条件を改善した。勤務時間（8時～17時）の固定や休日の確保、福利厚生の充実を図る「働き方改革」に取り組んでいる。

主な作目と年間スケジュール

通年農業とメリハリを考えた作目の選定！

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水稻												
啓翁桜												
スイートコーン												
枝豆												
マスクメロン												
葉物野菜												



水稻



枝豆



スイートコーン



マスクメロン



啓翁桜



葉物野菜